Hitachi Koki

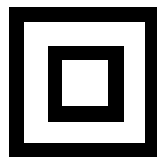
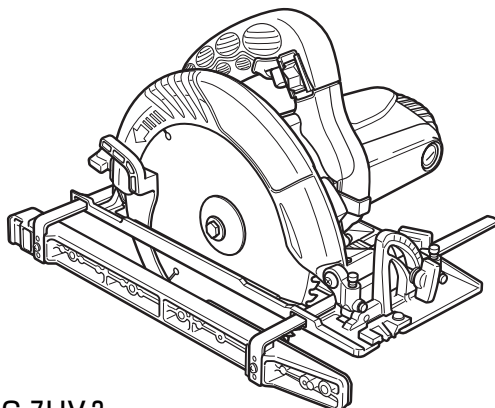
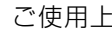
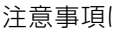
ブレーキ付
日立電子造作丸のこ

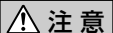
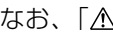
165㎜　C 6UV2
190㎜　C 7UV2

ブレーキ付
日立電子丸のこ

165㎜　C 6MV2
190㎜　C 7MV2

取扱説明書

このたびはブレーキ付日立電子造作丸のこ／ブレーキ付日立電子丸のこをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

二 重 絶 縁

C 7UV2

HITACHI

目　　次

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 ：**製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警　告

① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。

② 作業場の周囲状況も考慮してください。
- 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
- 作業場は十分に明るくしてください。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

③ 感電に注意してください。
- 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）

④ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。

⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

⑥ 無理して使用しないでください。
- 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
- 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
- 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

⚠ 警　告

⑨ 保護メガネを使用してください。
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜かないでください。
- コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。
- 使用しない、または修理する場合。
- 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
- その他、危険が予想される場合。

⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⑰ 不意な始動は避けてください。
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。
- 屋外で継ぎ（延長）コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

⚠ 警 告

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
  スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものは、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。

- この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
  ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

回 二重絶縁について

電気が流れる導体部と人の触れる外枠部の間が、二つの絶縁物で二重に絶縁されている電動工具で、この製品には“回”マークを表示しています。

二重絶縁工具は、感電に対し安全性が高められています。

異なった部品と交換したり、間違って組立てると、二重絶縁構造ではなくなり、危険です。

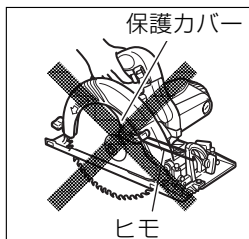
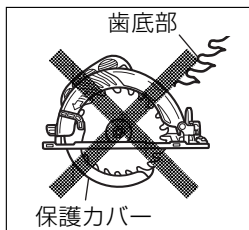
電気系統の分解・組立や部品の交換・修理は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

電子造作丸のこ／電子丸のこの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、電子造作丸のこ／電子丸のことして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警　告

① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となり、けがの原因になります。

② 保護カバーは、絶対に固定しないでください。
また、円滑に動くことを確認してください。
のこ刃が露出していると、けがの原因になります。

②
③ のこ刃は、銘板に表示してある範囲内ののこ刃を使用してください。また、歯底径が C 6UV2 ・C 6MV 2 は136㎜以下、C 7UV 2 ・C 7MV 2 は162㎜以下ののこ刃は使用しないでください。
保護カバーの覆いが不完全となり、けがの原因になります。

③
④ 切断する材料は、安定性のよい台に置いてください。
台が不安定であると、けがの原因になります。

⑤ 切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃がはさみつけられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。
のこ刃がはさみつけられると、けがの原因になります。

⑥ 材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性のよい台を設けてください。
また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの 3 倍以上にしてください。
このような台がないと、けがの原因になります。
（10ページの図を参照してください。）

⑦ 使用中は、機体を確実に保持してください。
確実に保持していないと、機体が振れ、けがの原因になります。

⚠ 警　告

⑧ **使用中は、のこ刃や回転部、切くずの排出部へ手や顔などを近づけないでください。**
けがの原因になります。

⑨ **切断途中で、のこ刃を回転させたまま機体を戻さないでください。必ずスイッチを切り、回転が完全に止まってから機体を持ち上げるようにしてください。**
回転させたまま機体を戻したり、持ち上げると、強い反発力が生じ、けがの原因になります。

⑩ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。**
そのまま使用すると、けがの原因になります。

⑪ **誤って落としたり、ぶつけたときは、のこ刃や機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。**
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

⚠ 注　意

① **刃物類（のこ刃など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。**
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。

② **のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。**
のこ刃が破損し、けがの原因になります。

③ **使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。**
回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

④ **作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。**
異常があると、けがの原因になります。

⑤ **ブレーキが働くときの反発力に注意してください。**
機体を落としたりし、けがの原因になります。

⑥ **切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。**
強い反発力が生じ、けがの原因になります。

⑦ **材料に釘などの異物が付いてないことを確認してください。**
刃こぼれだけでなく、反発により思わぬけがの原因になります。

⚠ 注　意

⑧ **切断しようとする材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に乗せたまま作業しないでください。**
手を切ったり、コードを切断し感電の恐れがあります。

⑨ **回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。**
感電の恐れがあります。

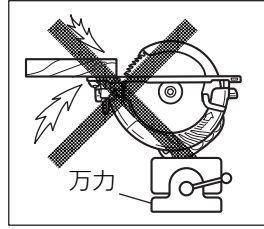
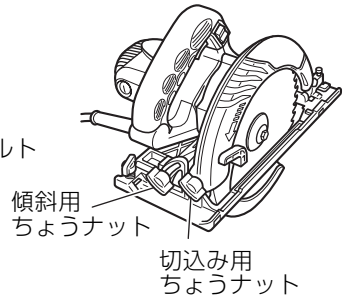
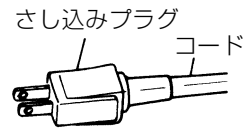
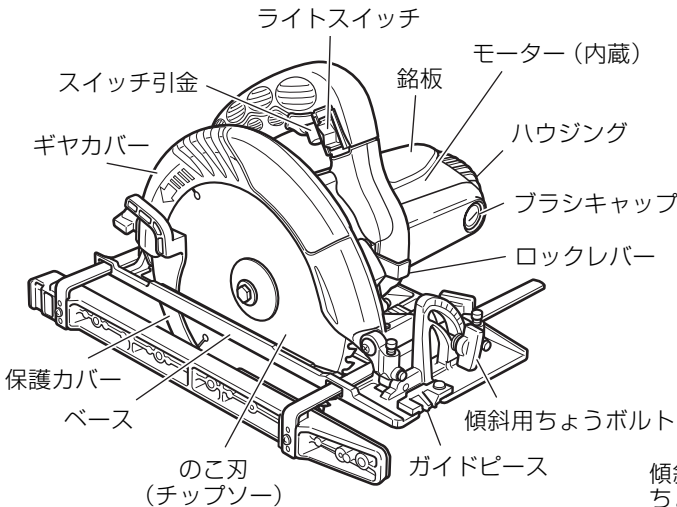
⑩ **機体を万力などで保持した使い方はしないでください。**
不意の接触などで、けがの原因になります。

⑩
万力

⑪ **高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っかけたりしないでください。**
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。

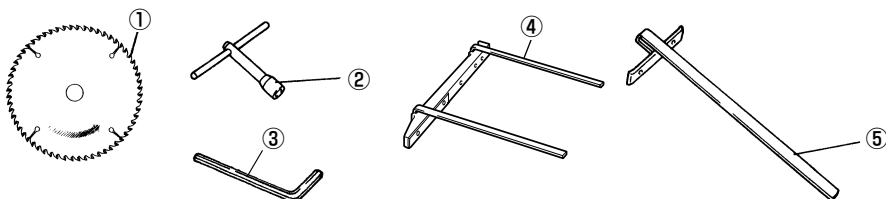
⑫ **回転させたまま、台や床などに放置しないでください。**
けがの原因になります。

各部の名称

ライトスイッチ
スイッチ引金
銘板
モーター（内蔵）
ギヤカバー
ハウジング
ブラシキャップ
ロックレバー
保護カバー
ベース
のこ刃
（チップソー）
ガイドピース
傾斜用ちょうボルト
さし込みプラグ
コード
傾斜用
ちょうナット
切込み用
ちょうナット

仕　　様

項目＼形名	C 6UV2	C 6MV2	C 7UV2	C 7MV2
使用電源	単相交流50／60 Hz 共用　電圧100 V			
最大切込み深さ	56 mm	57 mm	66 mm	68 mm
のこ刃（チップソー）	外径165 mm×穴径20 mm		外径190 mm×穴径20 mm	
	刃数72	刃数52	刃数72	刃数52
使用できるのこ刃	外径160 mm〜165 mm 穴径20 mm		外径180 mm〜190 mm 穴径20 mm	
無負荷回転数	4100 min^{-1} {4100回／分}			
全負荷電流	11.2 A		12 A	
消費電力	1060 W		1140 W	
モーター	単相直巻整流子モーター			
質量（コードを除く）	2.7 kg	2.6 kg	2.9 kg	2.8 kg
コード	2心キャブタイヤケーブル5 m			

標準付属品

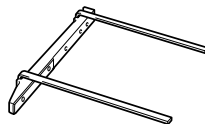
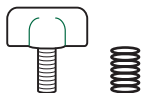
標準付属品＼形名・仕様	C 6UV2 C 7UV2	C 6UV2（SG） C 7UV2（SG）	C 6MV2 C 7MV2	C 6MV2（SG） C 7MV2（SG）	C 6UV2（N） C 7UV2（N）	C 6MV2（N） C 7MV2（N）
	チップソー付・ライト付				のこ刃別売・ライト付	
①チップソー（本体装着）	1枚	1枚	1枚	1枚	−	−
②ボックススパナ	1個	1個	1個	1個	1個	1個
③六角棒スパナ	1個	1個	1個	1個	1個	1個
④ロングガイド	1個	−	−	−	1個	−
⑤ガイド	−	1個	1個	1個	−	1個

別 売 部 品

（別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。）

⚠ 警　　告
• 別売部品をご使用の際も、保護メガネを使用してください。

1．のこ刃

のこ刃やチップソーにつきましてはカタログを参照してください。または、お買い上げの販売店や裏表紙のお客様相談センターにお尋ねください。

2．ロングガイド（C 6MV 2／C 7MV 2 用）

3．ちょうボルトセット

用　　途

○ 各種木材の切断
○ 各種化粧板、薄物樹脂板、軟質新建材の切断（プラスチックソー使用）

注
• 切断トイシは使用しないでください。
• 木材以外を切断すると、ベース面にキズが付きやすくなります。
• SG仕様（フッ素ベース）は、木材以外を切断するとフッ素コートが剥がれ、ベースの滑りが悪くなります。

作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

1．漏電しゃ断器の確認

この製品は二重絶縁構造ですので、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

2．継ぎ（延長）コード

⚠ 警　　告
• 継ぎ（延長）コードは、損傷のないものを使用してください。

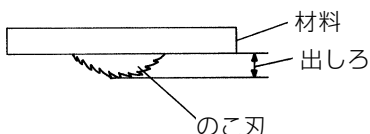
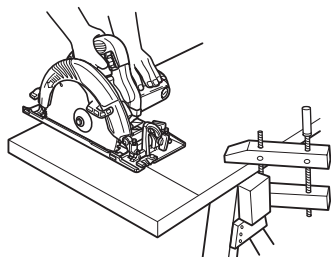
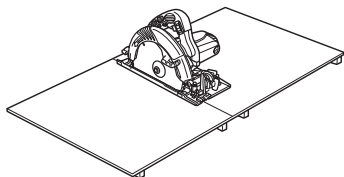
電源の位置がはなれていて継ぎコードが必要なときは、製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため、電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。（次ページの表を参照）

導体公称断面積	最大長さ
1.25 mm²	10 m
2 mm²	15 m
3.5 mm²	30 m

左の表は、使用できるコードの太さ（導体公称断面積）とその最大長さを示します。

3．作業台（木製）を用意する

⚠ 警　告

- **材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性のよい台を設けてください。**
  また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの3倍以上にしてください。
  このような台がないと、けがの原因になります。

のこ刃は材料の下面より出ますので、材料は作業台の上にのせて切断してください。また、のこ刃および保護カバーが地面に接触しないように十分な高さ（のこ刃の出しろの3倍以上）にしてください。

切断する材料の切り残し側は、しっかり押さえておくようにしてください。
この場合、材料をバイスで固定するなどしてしっかり押さえれば、両手で作業することができます。

材料の切り落とし側が大きいときは、切断中に材料の重みでのこ刃がはさみつけられないように切り落とし側にも安定性のよい台、または角材を設けてください。
作業台に角材などを利用する場合は、地面の平らなところを選び、角材を固定してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

⚠ 警　告

• ご使用前に次のことを確認してください。1～6項については、さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に確認してください。

1．使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に高速になり、機体が破壊する恐れがあります。また、直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2．スイッチが切れていることを確かめる

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源コンセントにさし込むと不意に起動し思わぬ事故のもとになります。

スイッチの引金を引き、離したとき引金が戻ることを必ず確認してください。

3．のこ刃の締付けを確かめる

工場で組立の際は、すぐご使用できるように、のこ刃を締付けてありますが念のため確かめてください。20、21ページの「のこ刃の取付け・取りはずし」の項をご参照のうえ、ボルトが十分締まっていることを確認してください。

4．切込み用ちょうナット、傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナットの締付けを確かめる

⚠ 警　告

• 切込み用ちょうナット、傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナット（7ページの図参照）が十分締まっていることを確認してください。
ゆるんでいると、けがの原因になります。

5．保護カバーの動きを確かめる

⚠ 警　告

• 保護カバーは、絶対に固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。
のこ刃が露出していると、けがの原因になります。

保護カバー（7ページの図参照）は、身体がのこ刃に触れるのを防ぐものです。必ずのこ刃をおおうように円滑に動くことを確認してください。

万一保護カバーが円滑に動かない場合は、決してそのままお使いにならないでください。この場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

6．ライトの使い方

注 • **ライトのレンズ部に付着したごみは、柔らかい布などで拭き取り、ライトのレンズ部に傷が付かないように注意してください。**
ライトのレンズ部に傷が付くと、明るさが低下する原因になります。
• **ライトのスイッチに、取付けてある防じん用カバーに傷を付けたり、防じん用カバーを破いたりしないように注意してください。**

ライトはスイッチの「ON」側を押すと点灯し、「OFF」側を押すと消灯します。

（ライトの点灯中、ハンドル部は温かくなります。）

7．電源コンセントの点検

さし込みプラグをさし込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。
そのままお使いになると、過熱して事故の原因になります。

8．ブレーキがかかることを確かめる

⚠ 注　意
• **ブレーキが働くときの反発力に注意してください。** 機体を落としたりし、けがの原因になります。

この機体はスイッチを切ると同時にブレーキがかかる構造になっています。ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。万一正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

9．溶接機に注意する

溶接機のすぐ近くで作業すると回転が不安定になることがありますので、溶接機のすぐ近くでは使用しないでください。

作業前の調整

⚠ 警　告

- **万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。**

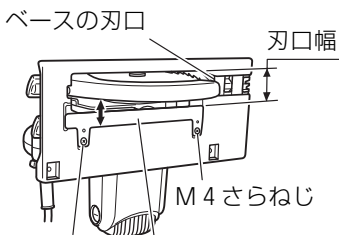
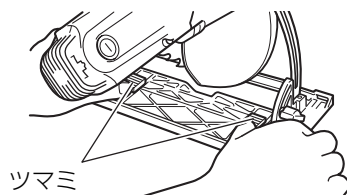
1．刃口板の調整

C 6UV2／C 7UV2

⚠ 警　告

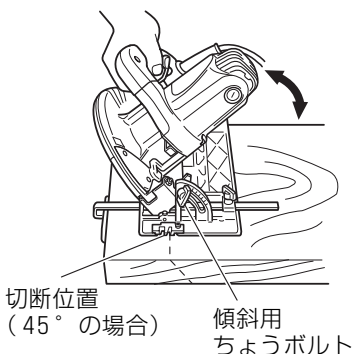
- **刃口板を途中の位置で使用しないでください。**
  刃口板を途中の位置で使用すると、傾斜切りの際、保護カバーに触れて、正常な動作ができなくなり、けがの原因になります。

C 6UV2／C 7UV2 は、ベース刃口幅を調整できる刃口板がついております。工場出荷の際はベース刃口幅を最大に取付けてあります。傾斜切りをする場合は刃口板の位置をそのまま最大刃口幅の状態で使用してください。

直角切断の場合は、ベースの上側に取付いているツマミ 2 個を同時に動かして、刃口板を移動し、ベース刃口幅が最小になるようにずらしてください。小幅材の切断時に、切断した木片がベースの刃口に入り込まず、安定した切断ができます。

注 • **万一、M 4 さらねじがゆるんでいた場合は確実に締付けてください。**

2．傾斜角度の調整

C 6UV2／C 7UV2

⚠ 警　告

- **調整後、傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナット、切込み用ちょうナットを十分に締付けてください。**
  ゆるんでいると、けがの原因になります。

⚠ 注　意

- **－5°の方向に傾ける際には、必ず切込み用ちょうナットをゆるめ、切込み深さを浅くしてください。**
  ハウジングとベースの間に手をはさみ、けがの原因になります。

傾斜用ちょうボルトとベース後部の傾斜用ちょうナット（7ページの図参照）をゆるめると、ベースをのこ刃に対して、最大45°まで傾けることができます。また、切込み用ちょうナットをゆるめて切込み深さを浅くした後に（17ページの「6．切込み深さの調整」を参照）、角度調整ボルトを図に示す方向に回すことで、最大－5°まで傾けることができます。

角度調整ボルトの回し数	逆傾斜角度
5～6回	約 －3°
8～9回	約 －5°

C 6MV2／C 7MV2

⚠ 警　告

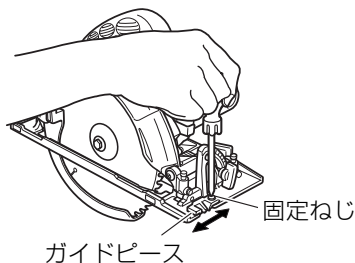
- **調整後、傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナットを十分に締付けてください。**
  ゆるんでいると、けがの原因になります。

傾斜用ちょうボルトとベース後部の傾斜用ちょうナット（7ページの図参照）をゆるめると、のこ刃をベースに対して、最大45°まで傾けることができます。

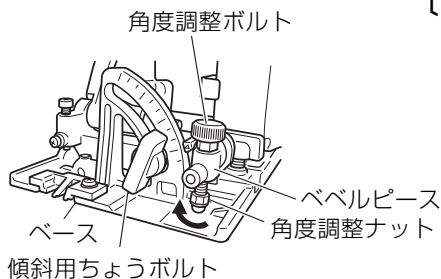
3．ガイドピースの微調整

ガイドピースの取付け位置を微調整できます。

工場出荷の際には、ガイドピース切欠部の直線部分をのこ刃の刃部側面に合わせてあります。

万一、取付け位置が狂っていた場合は、ガイドピースの固定ねじをゆるめ、位置を調整してください。

4．傾斜角度の微調整

45°と90°の傾斜角度（ベースとのこ刃の角度）を微調整できます。

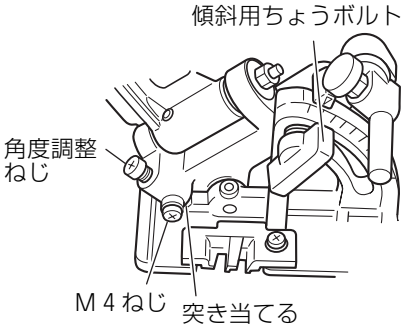
工場出荷の際に調整してありますが、万一、角度が狂っていた場合は次のように調整してください。

〔90° の場合〕

〔90° の場合〕

(1) 傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナット（7ページの図参照）をゆるめ、角度調整ボルトと角度調整ナットを突き当たるまで締付けます。

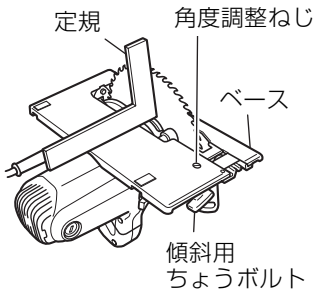
(2) 角度調整ボルトをベベルピースにしっかりと締付けます。

(3) ベース底面とのこ刃に定規を当て、角度調整ナットをベース上面に突き当たるまで図に示す方向に回し、角度を出します。

(4) 調整後、傾斜用ちょうボルトと傾斜用ちょうナットをしっかりと締付けます。

〔45° の場合〕

(1) 傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナット（7ページの図参照）および、M４ねじをゆるめます。
(2) ベース底面とのこ刃に定規を当てて角度を出し、傾斜用ちょうボルトを軽く締めます。
(3) 角度調整ねじの先端がベースに突き当たるまで、角度調整ねじを回してからM４ねじで固定します。
(4) 調整後、傾斜用ちょうボルトと傾斜用ちょうナットをしっかりと締付けます。

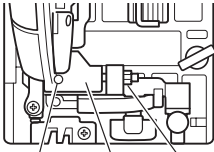
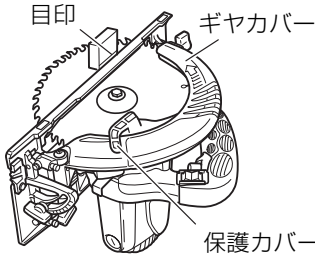
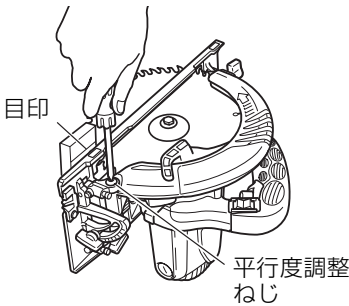
傾斜用ちょうボルト
角度調整ねじ
M４ねじ
突き当てる

〔45° の場合〕

C 6MV2／C 7MV2

90 ° の傾斜角度（ベースとのこ刃の角度）を微調整できます。

工場出荷の際に調整してありますが、万一、角度が狂っていた場合は次のように調整してください。

(1) 傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナット（7ページの図参照）をゆるめます。
(2) ベース底面とのこ刃に定規を当てて角度を出し、傾斜用ちょうボルトを軽く締めます。
(3) 角度調整ねじの先端がベースの金属製部品に当たるまで、角度調整ねじを回します。
(4) 調整後、傾斜用ちょうボルトと傾斜用ちょうナットをしっかりと締付けます。

5．平行度の微調整

ベース側面とのこ刃の平行度を平行度調整ねじで微調整できます。

工場出荷の際に調整してありますが、万一、平行度が狂っていた場合は次のように調整してください。

(1) ギヤカバーヒンジ部の固定ねじを標準付属品の六角棒スパナでゆるめます。

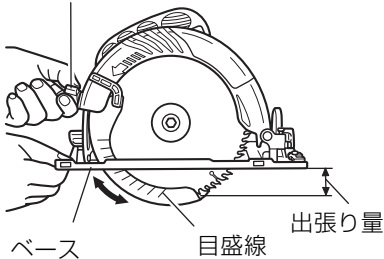
(2) 保護カバーをギヤカバーの中に引き込めます。

(3) のこ刃のベース後方側に木片を当て、ベース側面位置に目印を付けます。

(4) 目印を付けた木片をベース前方側に移動し、目印がベース側面に合うように平行度調整ねじを回します。

(5) 調整後、固定ねじをしっかり締付けます。

注 • **平行度調整後、切込み深さの調整を行なうと、平行度が若干狂う場合があります。**

6．切込み深さの調整

⚠ 警　告

• **調整後、切込み用ちょうナットを十分に締付けてください。**
ゆるんでいると、けがの原因になります。

注 • **機体についている目盛線は目安です。切込み深さを正確に調整するときは、のこ刃の出張り量を実測してください。ベースとのこ刃を傾斜させているときは、この目盛線は使えません。**

○ 切込み用ちょうナットをゆるめ、ベースを上下させて調整します。調整が終ったら、切込み用ちょうナットを固く締付けてください。
○ C6UV2／C6MV2の保護カバーにはのこ刃外径165㎜用、C7UV2／C7MV2の保護カバーにはのこ刃外径190㎜用の目盛がついています。ベースとのこ刃が直角のときは、この目盛を利用して切込み深さが調整できます。目盛線は3㎜(1分)ごとについています。

切　り　方

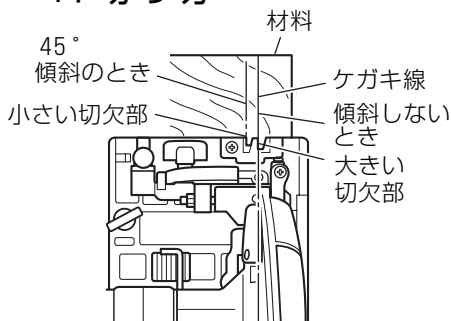
⚠　警　告

- **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がするときなどには直ちにスイッチを切ってください。**
- **切断中に機体をこじったり、強く押しすぎないでください。機体をまっすぐに静かに進めるようにしてください。**
  反発力を受け、けがの原因になります。また、モーター部に無理がかかるとともに、のこ刃の寿命を短くします。
- **のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。**
  けがの原因になります。
- **保護メガネを使用してください。**
- **作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。**

⚠　注　意

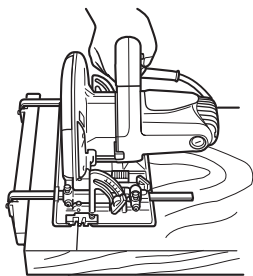
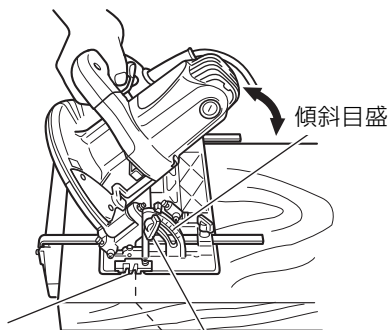
- **回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。**

注
- **切断を始める前にのこ刃の回転が全速回転になってから切断を始めてください。**
- **フッ素ベース品は、滑りが良いため、モーター部に無理がかかり易くなっています。機体を強く押しすぎないでください。**

1．切 り 方

〔上から見た図です〕

(1) 材料の上に機体（ベース）をのせ、ケガキ線とのこ刃とはベース前部のガイドピース切欠部で合わせます。
　傾斜させないときは大きい切欠部を、傾斜させるとき(45°)は小さい切欠部を目安にしてください。

(次ページへ続く)

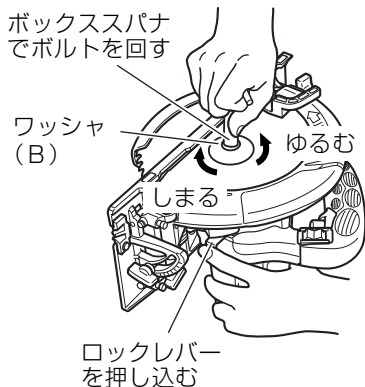
(2) のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れます。そのままゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにしてください。
ひき肌をきれいにするには一定の速さでまっすぐに進めてください。

〔傾斜しないとき〕

〔45゜傾斜のとき〕

2．スイッチの操作

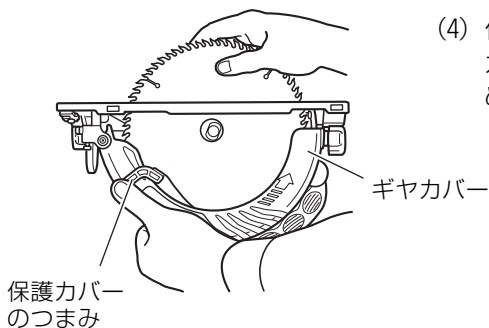
スイッチは、引金を引くと入り、離すと切れます。スイッチの引金を引いてストッパを押すと指を離してもスイッチは入ったままになっており、連続運転に便利です。
切るときは再び引金を引くとストッパは、はずれます。

のこ刃の取付け・取りはずし

⚠ 警　告
• 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

1．取りはずし方

(1) 切込み深さを最大にし、安定した床の上に丸のこを置きます。

(2) ロックレバーを押し込みながら、付属のボックススパナでボルトを静かに回します。

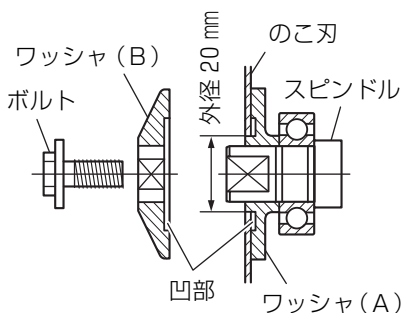
(3) のこ刃軸が固定されたらボックススパナを反時計方向に回し、ボルトとワッシャ（B）をはずします。

(4) 保護カバーのつまみをもって、保護カバーをギヤカバーの中に引き込め、のこ刃を取り出します。

2．取付け方

⚠ 警　告

- **ボルトの着脱は付属のボックススパナで作業してください。**
  付属以外の工具を使用すると、締過ぎや締付け不足になり、けがの原因になります。

⚠ 注　意

- **さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、ロックレバーが元に戻っており、のこ刃が円滑に回転することを確かめてください。**

(1) 取りはずし方と逆の手順で行なってください。

(2) スピンドルや、ワッシャ（A）、ワッシャ（B）に付いている切りくずをよくふき取ってください。

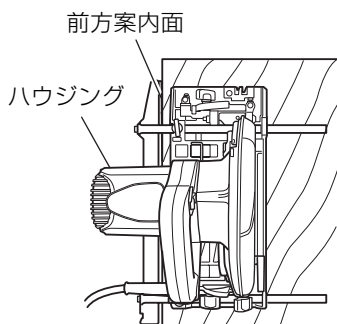
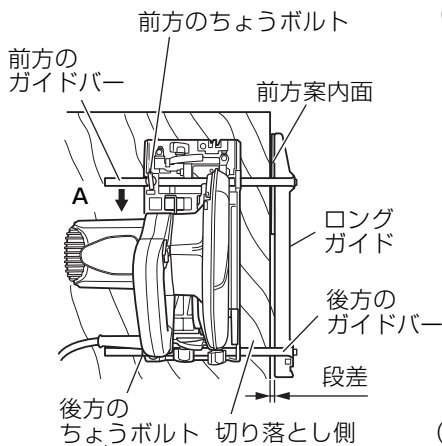
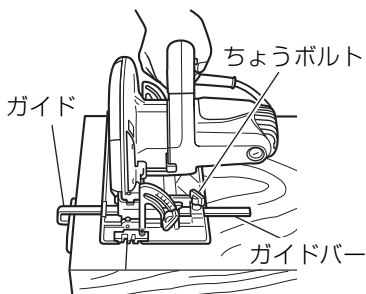
(3) ワッシャ（A）は、穴径 20 mmののこ刃だけが取付けできるようになっています。

取付けるときは、ワッシャ（A）の凹部をのこ刃側にします。

注
- **ワッシャ（A）の取付け方向を誤るとのこ刃を取付けることができません。**
- **ワッシャ（A）、ワッシャ（B）は必ず機体に取付けてあるものを使用してください。**

(4) のこ刃の矢印がギヤカバーの矢印方向と一致するようにのこ刃を取付けます。

(5) ボルトを十分に締付けます。

ロングガイド／ガイドの使い方

C 6UV2 ／C 7UV2

(1) 前後のガイドバーをベース側面の穴に通します。ロングガイドを左右に動かして切断位置を調整します。

前方のガイドバーを矢印A側に寄せながら、最初に前方のちょうボルトを締付けます。次に、後方のちょうボルトを締付けます。

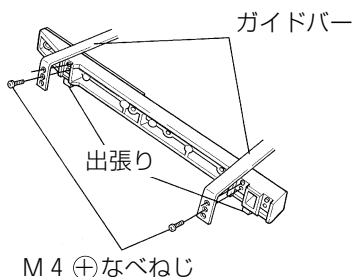
のこ刃のはさみ込み防止のため、ロングガイドの案内面後方に段差を設けてあります。

ロングガイドの前方案内面を材料に沿わせて切断します。

(2) ロングガイドをハウジング側に取付けて使用するときは、次のようにガイドバーを取付け直してください。

ロングガイドのM４ ⊕ なべねじ（２本）を取りはずします。２カ所の出張りが下にくるようにガイドバー（２本）を取付け直します。

これにより、前方案内面が前側になります。

C 6MV2 ／C 7MV2

ガイドバーをベース側面の穴に通します。ガイドを左右に動かして切断位置を調整します。

ちょうボルトを締付けます。

保守・点検

⚠ 警　告
• **点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。**

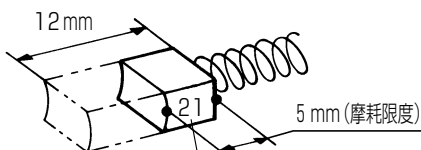
1．のこ刃の点検

⚠ 警　告
• **切れ味の悪くなったのこ刃はそのまま使用しないでください。** 無理して使用すると、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

のこ刃の切れ味が悪くなったのをそのままご使用になっておりますとモーターに無理をかけることになり、能率も落ちますから早めに目立てするか、新品と交換してください。

2．各部取付けねじの点検

各部取付けねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら締め直してください。

3．カーボンブラシの点検

カーボンブラシの番号
（番号21はコードNo.の下2桁を示しております。）

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度（5㎜）ぐらいになりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

注
- **新品のカーボンブラシと交換の際は必ず図示の番号（21）の日立カーボンブラシをご使用ください。指定外のカーボンブラシを使用するとブレーキがかからないことがあります。**
- **新品交換後の運転でカーボンブラシから臭いが出ますが、故障ではありません。**
  5分間ほど無負荷運転をすることによって、臭いは少なくなります。

交 換 方 法

(1) マイナスドライバーでブラシキャップ（７ページの図参照）をはずして、カーボンブラシを取り出します。カーボンブラシは、必ず２個同時に交換してください。
(2) 新品のカーボンブラシと交換後、ブラシキャップを取付けます。

４．保護カバーの動作点検と保守

保護カバー（７ページの図参照）は、いつも円滑に動作するようにしてください。なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。

５．表面のよごれ清掃

機体の外枠は強じんな合成樹脂製ですが、ガソリン、シンナー、石油、灯油類を付着させると表面をいためます。
清掃の場合は、乾いた布か石けん水をつけた布などでふいてください。

６．製品や付属品の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

○お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所
○軒先など雨がかかったり、湿気のある場所
○温度が急変する場所
○直射日光の当たる場所
○引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所には保管しない。

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。
ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。
その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

■ 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全 国 営 業 拠 点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟）	☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目（日生ビル）	☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号	☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟）	☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル）	☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番	☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号（スノークリスタル）	☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号（第一生命ビル）	☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981	☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号	☎(092) 621-5772(代)

● 電動工具ご相談窓口 ── お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター　フリーダイヤル　0120-20 8822（無料）

※携帯電話からはご利用になれません。（土・日・祝日を除く　午前9：00～午後5：00）

電動工具ホームページ ── http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社

509

部品コード　C99129204 N